令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大成小学校】

① 今年度の課題と学力向上策

	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ＜指導上の課題＞基礎的な知識・技能の定着を図るだけではなく、その知識・技能の活用場面の設定が不十分である。	⇒	書き込み式ドリルやドリルパーク等の活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習方法等に取り組めるように指導する【週に1度】 児童が主体的に取り組めるような言語活動を設定した授業を実施する。【学期に1度】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 国語「話すこと・聞くこと」 ＜指導上の課題＞他者に自分の考えを伝える活動や、他者の考えを受け入れてよりよい考えを導き出す機会の設定が不十分である。	⇒	他者の考えを受け入れられるように、確実に話を聞くことを主眼に置いて指導を行う。【毎時間】 ICTを効果的に活用し、児童が自分の考えを様々な形でアウトプットする機会を設定する。【月に1度】

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語の、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題の正答率に児童によって差が見られた。複数の読み方や同音異義語がある中で、文脈に応じて適切な漢字を選択し、正確に書き表す力に個人差が見られたので、漢字の確実な習得と活用力のさらなる向上を図る。
思考・判断・表現	国語の、複数の資料を読み、分かったことや考えたことをまとめることができるかどうかを見る問題に課題が見られた。目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けるために、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりする力の育成を図る。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	学年や発達段階に合わせて、基礎基本の定着を図る確認テストの計画を児童に示すなどの工夫をし、書き込み式のドリルやドリルパーク等を活用しながら漢字を正しく書く力の定着を進めることができた。一人ひとりに合った学習方法等に取り組むための指導については、頻度に差が見られた。	変更なし
思考・判断・表現	B	人間関係プログラムで学んだ話の聞き方についてのスキルを含め、国語の授業を中心として、話し方・聞き方の指導に力を入れた。他教科等の指導の際にも、意識できるように指導した。国語の授業を中心に、児童一人ひとりの考えをアウトプットする機会の設定を意図的に設けているが、頻度やICT活用について課題がある。	変更なし

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	文の中の主語と述語の関係を理解する問題において、市の平均正答率を下回る学年が多くあった。文の中での言葉のつながりを捉えきれていない傾向が見られる。文章を読む際、文の「主語」「述語」を短く抜き出す活動や、修飾語がどの言葉を詳しく説明しているかを、矢印などで結びつける活動などを大切にしていく。
思考・判断・表現	「相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の攻勢を考える」問題において、正答率が著しく低かった。誰に、何のために話すのかを明確に設定させることで、選ぶべき理由や事例の質を高め、具体的な場面を設定し、相手の関心を惹きつける工夫（問いかけなど）を構成に組み込むなど、「相手意識」と「目的意識」の明確化した単元づくりを大切にする。

⑤ 学力向上策の実施状況

	評価（※）	
知識・技能	B	授業や朝学習の時間、家庭学習を通して、漢字を正しく書く力の定着を進めることができた。ドリルパークや書き込み式のドリルの活用など、繰り返し取り組むことで自校テストの結果に伸びが見られた。一人ひとりの基礎・基本となる学習内容の定着には個人差が見られた。
思考・判断・表現	B	R7年度さいたま市学習状況調査「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」の質問項目において、5，6年ともに90％以上が肯定的に回答しており、国語を中心とした相手の話を聞くことの指導を大切に行った成果が表れている。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と学力向上策

知識・技能	全体的には、基礎・基本の定着を図ることができた。しかし、文を正しく理解するために、主語と述語の関係を正しく捉えたり、目的を意識して、文章の中から中心となる語や文を見付ける力に課題が見られたため、重点的に取り組み、R8年度のさいたま市学習状況調査等で検証していく。
思考・判断・表現	自分の考えをわかりやすく伝える力を育成するために、相手意識、目的意識を明確にして、自分の考えをまとめる活動の充実を図る。その際、複数の資料を比較して必要な情報を読み取る活動に繰り返し取り組んだり、思考ツールを活用して自分の考えを整理する活動を取り入れた授業改善を行い、R8年度の学習状況調査で検証していきたい。